

第五編 法令論

第一章 現行法令竝之カ改正意見

第一節 現行法令竝通牒

一、種痘法 (明治四十二年四月十四日法律第三十五號)

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

二 第二期 敗ヘ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條 左ニ掲クル者ハ未成年ノ生徒院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

一 學校育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長院長其ノ他首長

二、教育、監視又ハ備使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者
前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條 新ニ保護者トナリ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル
證據不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘ
シ前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長(區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ屆出ツヘ
シ未成年者ヲ備使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合
ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戸籍吏ニ通知シ戸籍吏ハ戸
籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル
未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二
項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於
テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届
出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採取スルコトヲ得

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘濟證ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツ
ヘシ

第十三條 醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示セシム
ヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時
種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師虛偽ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金

第三處ス

第十七條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一、第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二、保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條 第十三條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準
シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人親權ヲ行フ者又ハ後
見人ナキトキハ戶主戶主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂
フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス
本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ハ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依
ル第二期ノ種痘數ハ歳七歳以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサ
ルガ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

一、種痘法施行規則 (明治四十二年十二月 改正 (大正八年八月 內務省令第二六號 第十號))

第一條 市町村長(區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ
於テ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ
一、前年中出生ノ者

二、數ハ歳十歳ノ者

三、前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者
地方長官(東京府ハ警視總 以下之ニ依テ)ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ
得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ
就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシムヘシ

第四條 市町村長ハ痘瘡猩紅熱實布埜利亞(格魯布)丹毒麻疹百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要
ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ
經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遅クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指
定スヘシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條 種痘濟證種痘證及種痘猶豫證ハ附録様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後
二月以内ニ其ノ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ

- 一 第一期種痘善感シタル者
- 二 第一期第二回ノ種痘不善感ナル者
- 三 第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者
- 第十條 市町村長ハ戶籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ
- 第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 前項ノ届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明スル者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス
- 一 種痘經過證
- 二 種痘猶豫證
- 三 小學校之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ
- 四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戶籍證本又ハ抄本
- 五 市町村長ノ證明書
- 六 種痘又ハ痘瘡ノ癩痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ證跡
- 第十三條 削除

附 則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

川紙赤色紙

第一號 (第一期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某

何

年

月

生 某

年 月 種痘第 回善感 類

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

市町村長 何

某 團

年 月 日

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス 若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

川紙赤色紙

第二號 (第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某

何

年

月

生 某

年月 種痘(第二回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年月 日

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

川紙青色紙

第三號 (第二期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某 女男

何

年月 日 某 生

年月 種痘(第一回)善感 願

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年月 日

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

川紙青色紙

第四號 (第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某 女男

何

年月 日 某 生

年月 種痘(第二回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年月 日

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

川紙自紙

第五號 (第一期又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期第一回種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某 女男

何

年月 日 某 生

年月 種痘 不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

年月 日

注意 此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

道府縣郡市町村長 何

某 印

第六號 (第一期種痘) 第一期種痘證

住所 道府縣郡市區町村某 女男 何 年 月 日 生 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡市區町村 醫師 何 某 印

第七號 (第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ) 第一期種痘證

住所 道府縣郡市區町村某 女男 何 年 月 日 生 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡市區町村 醫師 何 某 印

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セシ

第二期種痘證

住所 道府縣郡市區町村某 女男 何 年 月 日 生 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡市區町村 醫師 何 某 印

第九號 (第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ) 第二期種痘證

住所 道府縣郡市區町村某 女男 何 年 月 日 生 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡市町村
醫師 何 某 印
三九八

年 月 日
注 意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第十號 (第一期第一回又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモ)

第一期第一回種痘證

住所 道府縣郡市區町村某
女男
何
年 月 日
生 某

年 月 種痘(第一回)不善感
右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

年 月 日
注 意 此證ハ更ニ種痘ヲ受ケル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

用紙白紙
第十一號

第二期種痘猶豫證

住所 道府縣郡市區町村某
女男
何
年 月 日
生 某

右者何々病ノ爲種痘法第七條ニ依リ(治癒ニ至ル)迄種痘ヲ猶豫ス但シ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者
ハ前記ノ(疾病治癒)シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ
道府縣郡 市町村長 何 某 印

注 意 此證ハ種痘ヲ受ケル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス
若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

三、種痘法第八條ニ依ル符號記入方ノ件 (明治四十二年十二月 司法省令第三三號)

第一條 戶籍吏カ種痘法第八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ戶籍ノ欄外氏名ノ下ニ左ニ從ヒ符號ヲ
記入スヘシ

善感者ナルトキ 直徑三分

不善感者ナルトキ 高サ三分

痘 方三分

第二條 戶籍吏ハ毎年十二月末日迄ニ前年中出生ノ本人ニシテ其ノ戶籍ニ前條ノ符號ノ記入ナキモノ
ノ本籍地及氏名ヲ市町村長ニ通知スヘシ

附 則
本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

四、種痘施術心得

(明治四十二年十二月
内務省告示第一七九號)

- 第一條 種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用フヘシ
- 第二條 痘苗ハ冷暗所(氷室地下室又ハ深井内等)ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スヘシ
- 第三條 痘苗ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フヘシ
痘苗ハ之ヲ稀釋スヘカラス
- 第四條 痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ漿盤上ニ出シ能ク之ヲ攪拌混和スヘシ
- 第五條 痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス
接種ニ臨ミテハ先ツ局部ヲアルコホル又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ消毒シ次ニ滅菌シタルガーゼ又ハ脫脂綿ヲ以テ丁寧ニ之ヲ拭淨スヘシ
- 第六條 種痘ノ場所ハ相當廣潤ニシテ清潔ナル場所ヲ選ヒ其ノ換氣採光暖室ニ注意スヘシ
- 第七條 施術者ハ成ルヘク上衣ヲ著シ且豫メ手指ヲ消毒スヘシ
- 第八條 漿盤及種痘針ハ使用ニ先チアルコホル又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタルガーゼヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ適當ナル他ノ消毒方法ニ依ルモ妨ナシ
種痘針ハ受痘者一人毎ニ前項ニ依リ之ヲ處置スヘシ
- 第九條 接種ノ方法ハ切種式ニ依ルヘシ即チ局部ノ皮膚ヲ緊張シ相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切長サ一分乃至二分若ハ單線切長サ約三分ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スヘシ
切種ニ際シテハ成ルヘク出血セサル様注意スヘシ僅ニ紅痕ヲ呈スルヲ以テ適度トス

- 第十條 接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右上膊四切乃至六切第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ其ノ部位ニ接種スルモ妨ナシ
- 第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康状態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ニハ成ルヘク種痘ヲ猶豫スヘシ但シ第四號ヲ除ク外痘瘡流行ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 出生後九十日未滿ノ者
 - 二 著シク營養障害ニ陥レル者
 - 三 蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
 - 四 熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者
- 第十二條 檢診ノ場合ニ於テ注意スヘキ要項左ノ如シ
 - 一 一定型痘疱二顆以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘以後ニ在リテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水泡ヲ生シタルモノモ亦善感トス
 - 二 接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生シタルモノ、潰瘍ニ陥リ若ハ痂皮ヲ結ヒタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテハ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス
- 第十三條 施術者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其ノ保護者ニ對シ種痘後注意スヘキ事項ヲ指示スヘシ

五、市町村種痘事務整理順序ニ關スル件

(明治四十三年二月十日衛發第四八號
各地方長官宛衛生局長通牒)

各地方ニ於ケル最近十年間ノ定期種痘成績ヲ觀ルニ毎年ノ種痘數ハ人口千ニ對シ平均八十人餘ニ該リ能ク普及シ居リタルカ如ク相見ヘ候ヘ共其内容ヲ精査スルニ疾病事故ニ託シ種痘ヲ怠ル者毎年七八十萬人ヲ算シ種痘ヲ受クル者ハ同一人ニシテ頻繁ニ之ヲ受ケ又之ヲ受ケサル者ハ途ニ其儘ニ經過シ斯ク

シテ漸次累積セル多數ノ種痘懈怠者ニ對シテハ從來痘瘡流行シ若クハ流行ノ兆アル際各地ニ於テ急遽臨時種痘ヲ施行シ辛フシテ其種痘ヲ強制シ來リタル實況ニ候ヘハ一朝病毒ノ侵襲ヲ蒙ルニ當リテハ土地ノ狀況ニ依リ往々流行ノ慘害ヲ免レザリシ次第ニ有之是畢竟舊種痘規則ニ於テハ種痘ノ時期各人區區ニシテ從テ平時義務者ニ對シ之ヲ強制スルコト難ク又懈怠者ニ關スル規定ヲ缺ク等不備ノ點アルニ基因スルモノト認メ候依テ新法ニ於テハ是等ノ缺點ヲ補ヒ平時定期種痘ヲ普及セシメ結局臨時種痘ノ必要ヲ見サルニ至ラシメンコトヲ期セリ然レトモ專ラ種痘事務ノ周到ヲ目的トシ繁雜ナル事務ヲ市町村ニ強ヒンカ萬般ノ事務幅帳スル市町村ノ實情ニ適セサルカ爲メ遂ニ其實行ヲ期シ難ク辛フシテ形式ヲ整フルモ實用ヲ爲サス徒ニ多大ノ手數ヲ要スルニ止マルヘシト存候就テハ新種痘法ニ於テハ第一期種痘ハ數ヘ歲二歳ノ一定ノ時期迄ニ完了ヲ期シ漏レタル者ハ戶籍簿ニ就テ調査シ遅クモ翌年ノ種痘期ニハ種痘ヲ受ケシメ尙高一漏レタル者アラハ幼稚園、小學校等ニ入學ノ際調査シ以テ少クモ第一期種痘ノ遺漏ナキヲ期シ又第二期種痘ハ小學校ニテ勵行シ其他雇主等ヲシテ其義務ヲ負擔セシメ又種痘證書等ノ檢閲ニ依リ未種痘者ノ調査ヲ精確ナラシムルコトトセリ新法ハ此ノ如クシテ大體ニ於テ遺算ナキヲ期スルモノニ有之是等ノ規定ニシテ實行セラルルニ於テハ定期種痘ノ普及ヲ期スルニ足ルヘク此上強テ方法手續等ヲ市町村等ニ命スルノ必要無之ト存候加之人口多數ニシテ常ニ其移動多キ市街地ト其否ラサル郡部トハ自ラ差異可有之從テ命令ヲ以テ一定ノ順序手續ヲ定メ若クハ一定ノ種痘臺帳ノ類ヲ備ヘシメ第二期種痘完了ニ至ル迄同一帳簿ヲ以テ整理セントスルカ如キハ事實ニ適セスト存候依テ市町村ヲシテ必要ニ應シ實情ニ照シ各其適宜ナル順序方法ニ依リ適宜ノ帳簿ヲ設ケシメ毎年要種痘者ノ調査ヲ嚴密ニシ定期種痘ノ遺漏者ナキヲ期セシメラレ度候別紙整理順序ハ前記ノ趣旨ニ依リ市町村ニ於ケル種痘事務整理上參考ニ資スルニ止マリ此類ノ執務手續ヲ一定シテ之ニ依ラシムルノ主意ニ無之

市町村種痘事務整理順序

第一 種痘期日ノ指定及公種痘施行ノ期間

第一條 市區町村長(之ニ準スヘキモ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ前年中出生ノ者數ヘ歲十歳ノ者及前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者其他種痘ヲ行フ必要アル者(第十條第三號乃至第五號及第十二條參照)ノ種痘期日ヲ指定スルコト

前項ノ種痘期日ハ公種痘(市區町村ニ於テ施行スル種痘ヲ謂フ)施行期間ノ最終日トスルコト但市區町村内ノ字等ニ依リ種痘期日ヲ異ニスルモ妨ナシ

第二條 市區町村長ハ受痘者ノ豫定員數ニ應シ(醫師一人一日ノ種痘人員二百人以内ト算シ)公種痘施行ノ期間及其場所ヲ定メ種痘期日ノ指定ト共ニ豫メ之ヲ公告スルコト

市區町村長ハ前項公告ノ外種痘簿、種痘票、學齡簿等ニ依リ種痘定期ニ在ル者其他種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ其保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ノ指定、公種痘施行ノ期間及其場所ヲ漏ナク通知スルコト

第三條 種痘法施行規則第四條ノ患者(痘瘡、紅熱、實布、痘利、痘疹、丹毒、麻疹、百日咳)アル家ノ受痘者ニ付テハ公種痘施行ノ日時又ハ場所ヲ別ニ定メ之ヲ其保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ通知スルコト

第二 公種痘施行ノ準備

第四條 種痘ハ市區町村醫ヲシテ之ヲ施行セシメ又ハ相當技能アル醫師ニ之ヲ囑託スルコト但便宜數

町村協議シテ巡回種痘ヲ囑託スルモ妨ナシ

第五條 市區町村ハ痘苗ノ外種痘ニ要スル器械藥品ヲ準備スルコト其品目概ネ左ノ如シ

一、切種用種痘針

二、藥 盤

三、滅菌「ガ」セ及脱脂綿同上容器

四、「アルコホル」又ハ「クレゾール」水若クハ其他ノ消毒藥液

五、「ペトリ」氏小皿及硝子製圓筒(コップ)ノ類

前項品目ノ數量ハ種痘人員ニ應シ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ定ムルコト

第六條 市區町村ハ種痘ヲ行フヘキ人員(受痘者ハ第一期及第二期ヲ合シ人口ニ應シ痘苗具數ヲ豫算シ發送

期日ヲ指定シテ一箇月以前ニ傳染病研究所ニ請求スルコト

第七條 種痘施行ノ場所ハ受痘者ノ集合ニ便利ナル地區ニ於テ相當廣潤ニシテ可成清潔ナル個所ヲ選

定スルコト授業ヲ妨ケサル限ハ小學校等ヲ種痘所ニ充ツルヲ便宜トス

前項ノ種痘所ハ地域廣潤ナル市區町村ニ於テハ可成之ヲ數箇所ニ設置スルコト

第八條 種痘所ニハ少クモ受痘者控室及施術室ヲ區別シ各室トモ豫メ濕拭掃除ヲ行ヒ又換氣採光ニ注

意シ寒冷ナル日ニ在リテハ相當煖室ノ設備ヲ爲スコト

第三 種痘簿ノ編製

第九條 種痘簿ハ其年施行スル公種痘ノ用ニ供シ併テ其年ニ於ケル公私種痘ノ成績ヲ明ニスル目的ヲ

以テ編製スルモノトス

第十條 市區町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雛形ニ準シ第一期及第二期種痘簿ヲ編製

スルコト

一、戶籍簿、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ前年中既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種

痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト但寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏

ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

二、學齡簿等ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル

者ヲ除キ之ヲ第二期種痘簿ニ登載スルコト但學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ

之ヲ調査シ登載スルコト

三、戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル

者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト

四、前年種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其他前年ノ種痘簿ニ登載ノ者ニシテ前

年中ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了セサルトキハ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

五、前各號ノ外學校、育兒院、製造所等ノ首長、警察官吏又ハ衛生組合長ノ通報、種痘法第四條第二項ノ届出

其ノ他種痘法第十四條ニ依レル調査等ニ依リ種痘ヲ怠リタル者(種痘ヲ受ケタル證據不明)ヲ第一期又

ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第十一條 市區町村長ハ種痘簿編製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當スル者其市區町村内ニ來住シ

タルトキハ過滯ナク種痘簿ニ登載スルコト

第十二條 市區町村長ハ前二條ノ外常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登

載スルコト

前項ノ場合ニ於テ其年内ニ種痘ヲ完了セシメ難シト認ムル者ニ就テハ其通報書、届書、調査書等ヲ一括

保存シ翌年ノ種痘簿ニ登載スルコト

第十三條 市區町村長ハ種痘簿ニ登載ノ者種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ他市區町村ニ轉住シ若クハ一年以上上居所不明ナルトキ又ハ痘瘡經過シタル爲種痘ヲ要セサルトキハ其事由ヲ當該欄内ニ記シ氏名ノ欄ヲ朱線ニテ抹消スルコト

前項ノ外種痘簿記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ(既ニ種痘ヲ完了シタル者ニ付テハ異動ヲ除ク) 遲滯ナク之ヲ加除訂正スルコト

第十四條 市區町村長ハ公種痘ヲ施行シタルトキ及種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其都度遲滯ナク種痘ノ月日成績等ヲ種痘簿當該欄内ニ記入シ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ備考欄内ニ其事由ヲ記載スルコト

其年出生ノ者第一期種痘ヲ完了シ又ハ數ハ歳八歳九歳ノ者第二期種痘ヲ完了シタルトキ其他種痘簿ニ未登載ノ者種痘ヲ完了シタルトキハ之ヲ登載記入スルコト

第三十六條ニ依リ種痘施行ノ場合ニ於テ其年内出生者ノ種痘ノ月日成績等ハ可成別ニ種痘簿ヲ調製シ之ニ登載記入スルコト

種痘簿編製前(一月一日ヨリ種痘簿編製ニ至ル間) 私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其届書(口頭届出ナレバ控書ヲ作リ)ヲ保存シ種痘簿編製ノ際之ヲ登載記入スルコト

第十五條 種痘簿ノ記入順序ハ受痘者ノ多數ナル市區町村ニ於テハ町名字名若クハ番地ニ依リ適當ニ區別シ又ハ氏名ノイロハ順ニ記入スル等搜索ニ便ナラシムルコト

種痘定期ニ在ル者及種痘ヲ怠リタル者ニ付テハ可成各別ニ種痘簿ヲ調製スルコト

種痘簿ハ十年間之ヲ保存スルコト

第四 種痘票ノ調製

第十六條 市區町村長ハ便宜第九條乃至第十五條ノ種痘簿ヲ編製セス本條以下ニ依リ種痘票ヲ調製スルモ妨ナシ

種痘票ハ専ラ公種痘ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ調製スルモノトス但第二十四條ニ依リ併テ私種痘ノ成績ヲ明ニスルノ用ニ供スルモ妨ナシ

第十七條 市區町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雛形ニ準シ第一期及第二期種痘票ヲ調製スルコト

一、戸籍簿身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコト但寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調製シ種痘票ヲ調製スルコト

二、學齡簿等ニ就キ數ハ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第二期種痘票ヲ調製スルコト但學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト

三、戸籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコト

四、種痘法第四條第二項ノ届書警察官吏衛生組合長ノ通報書其他種痘ヲ怠リタル者ノ覺書等及種痘猶豫期限ノ經過シタル猶豫願書竝私種痘ノ第一回不善感届書ヲ取出シ種痘票ヲ調製スルコト

五、前年ノ種痘票中種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其他未タ種痘ヲ完了セサル者ノ種痘票ヲ取出シ本條各號ノ種痘票ト共ニ整理スルコト

六、前各號ノ外種痘ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ其種痘票ヲ調製スルコト

第十八條 市區町村長ハ種痘票調製後種痘ノ指定期日迄ニ前條ニ該當スル者其ノ市區町村内ニ來住シタルトキハ遲滯ナク其種痘票ヲ調製スルコト

第十九條 種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ痘瘡ヲ經過シ若クハ私種痘ノ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第二十四條ノ場合ヲ除ク外其種痘票ヲ廢棄スルコト又他市區町村ニ轉居シタル者ニ付テハ其種痘票ヲ廢棄シ若クハ便宜之ヲ轉居地ノ市區町村長ニ送致シ轉居通報ノ用ニ供スルコト

種痘票調製後種痘ノ指定期日マデニ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ其種痘票備考欄内ニ其事由ヲ記入シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十條 市區町村長ハ常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ若シ直ニ種痘ヲ完了セシメ難キトキハ其覺書ヲ調製シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十一條 第三十五條又ハ第三十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルトキ種痘票未調製ノ者ニ付テハ其際之ヲ調製シ記入スルコト

第二十二條 種痘票ハ使用後善感不善感猶豫不參等ニ依リ區分シ十年間之ヲ保存スルコト

第二十三條 種痘法第十二條第二項私種痘ノ届書(口頭届出ナリ)猶豫申請書種痘法第四條第二項ノ届書、警察官吏衛生組合長ノ通報未種痘者覺書等ハ一括保存スルコト

前項書類ノ保存期間ハ私種痘届書ハ十年間其他ハ種痘完了又ハ種痘票調製済マテトス

第二十四條 市區町村長ハ事務ノ繁簡ニ依リ前條ノ届書申請書通報書覺書等ニ代ヘ其種痘票ヲ調製シテ保存スルコト此場合ニ於テハ私種痘ノ種痘票ニハ其備考欄内ニ私種痘ト朱書スルコト

第五 種痘及檢診ノ施行

第二十五條 市區町村吏員ハ種痘所ニ臨ミ種痘事務ニ従事スルコト

種痘所ハ種痘簿又ハ種痘票ヲ配置シ種痘ノ月日成績等ヲ記入スルコト

第二十六條 相當ノ事由ニ依リ種痘所ニ出頭スルコト能ハサル受痘者ニ對シテハ其住所ニ就キ種痘ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト

第二十七條 種痘所ニハ檢診期日及種痘後注意スヘキ事項ヲ揭示シ且之ヲ口頭及覺書ヲ以テ保護者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ指示スルコト其注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一、清潔ナル襦袢類ヲ着用セシムルコト

二、感冒ノ豫防ニ注意シ接種後數日間ハ腰湯ノ類ハ妨ナキモ可成全身浴ヲ禁スルコト

三、接種ノ部位ハ摩擦搔爬又ハ汚染セサル様注意スルコト

四、接種部附近ニ膿腫ヲ生シタルトキ發熱高キトキ又ハ潰瘍ヲ生スルノ傾アルトキハ醫師ノ診察ヲ受クルコト

五、指定セラレタル檢診期日ニハ相違ナク檢診所ニ出頭スヘキコト但シ不得止事由アルトキハ其ノ當日マテニ事由ヲ具シ届出ルコト

六、種痘濟證ハ大切ニ保存スヘキコト

第二十八條 檢診ハ種痘後第六日乃至第八日ニ種痘所ニ於テ醫師之ヲ行ヒ市區町村吏員ハ其ノ事務ニ従事スルコト

第二十九條 檢診ノ當日相當ノ事由ニ依リ出頭スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ檢診ヲ行ヒ又ハ最寄醫師ノ檢診ヲ受ケシメ其ノ種痘證ヲ揭示シ又ハ其ノ寫ヲ添ヘ口頭若ハ書面ニテ届出ヲ爲サシムルコト

第三十條 種痘濟證ハ檢診ノ當日之ヲ交付スルコト

第三十一條 市區町村長ハ學校、育兒院、製造所其ノ他多數ノ兒童ヲ集合セシムル場所ノ首長ニ協議シ各自ニ醫師ヲシテ種痘及檢診ヲ行ハシメ、又ハ兒童ノ來集スヘキ種痘所及日時等ヲ打合ハセ種痘及檢診ヲ行フコト

第三十二條 市區町村長ハ衛生組合長ヲシテ組合内ノ種痘未了者ヲ調査セシメ其ノ保護者等ニ對シ指定期日マテニ種痘ヲ受クヘキコトヲ戒告セシメ其ノ種痘所ニ來集スヘキ者ハ可成之ヲ引卒出頭セシムルコト但シ兒童ノ保護者等ニシテ兒童ヲ種痘所ニ出頭セシメ難キ事情アル者アルトキハ其ノ氏名住所ヲ通報セシメ第二十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルコト

第三十三條 衛生組合ニ於テ種痘ヲ施行シタルトキハ便宜組合長ヲシテ保護者等ニ代リ施術醫師ノ證明ヲ得種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ爲サシムルコト

第三十四條 市區町村長ハ種痘簿、種痘票等ニ依リ指定期日マテニ種痘ヲ行ハサル者、種痘猶豫期間ヲ經過シタル者其ノ他種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ限リ種痘ヲ催告スルコト

前項期日マテニ種痘ヲ完了セサルトキハ種痘法施行規則第六條ニ依リ遅クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ更ニ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ヲ指定スルコト

前項期日マテニ尙故ナク種痘ヲ行ハサルモノアルトキハ市區町村長ハ警察官吏ト協議シ其ノ居所等ニ於テ種痘ヲ強制施行スルコト

第三十五條 受痘者多數ナル市區町村又ハ海外諸港ト交通アル海港地ニ於テハ第二條ニ依ルノ外十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ於テ再ヒ公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ前條第一項ニ該當スル者及種痘定

期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第六 人口五萬以上ノ市區ニ於ケル種痘ノ施行

第三十六條 人口五萬以上ノ市區ニ於テハ前各條ニ依ルノ外毎月(八月、九月ヲ除キ)一回以上公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ豫メ之ヲ公告シ出生後九十日ヲ經タル者其ノ他種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第三十七條 市區長種痘期日ヲ指定シタルトキハ日傭稼人等勞働者ノ居住地域ニハ可成醫師及吏員ヲ派遣シ其ノ住所ニ就キ種痘及檢診ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト

第七 種痘ニ關スル通知記入

第三十八條 市區町村長ハ戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ他市區町村ニ轉居シタルモノアルトキハ速ニ之ヲ轉居先ノ市區町村長ニ轉報スルコト

第三十九條 市區町村長ハ公種痘ヲ施行シ又ハ種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ第一期種痘ヲ完了シタル者(患感シタル者及不患感ナル者モ二回檢診シタル者ニ限ル)ヲ速ニ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スルコト

第一期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第四十條 市區町村長ハ學齡簿編成ノ際之ニ種痘ニ關スル事項(第何期種痘完了、第何期第一回不患感痘瘡經過各其ノ年月)ヲ記入スルコト

前條ノ場合ニ於テ學齡兒童ナルトキハ其ノ第一期種痘ナルト第二期種痘ナルトニ拘ラス之ヲ學齡簿ニ記入スルコト第二期種痘前痘瘡ヲ經過シタルモノアルトキ亦同シ

第四十一條 市區町村長ハ小學校及之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ可成種痘ニ關スル事項(定期種痘完了、又ハ痘瘡經過)ヲ記入セシムルコト

第八 種痘濟證及種痘證等ノ調製

第四十二條 種痘濟證ハ保存ニ便ナラシムル爲可成厚キ西洋紙ニテ調製シ其ノ大サハ縱五寸五分横四寸五分位ト爲スコト

第四十三條 市區町村ニ於テハ可成醫師ノ交付スヘキ種痘證用紙ヲ種痘濟用紙ニ準シテ調製シ醫師ノ請求アルトキハ無償ニテ之ヲ交付スルコト私種痘届用紙モ亦之ニ準シ醫師ニ交付シ置キ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ代リ届出ヲ爲サシムルコト

明治 年 第 期種痘簿		何々		市區役場所	
氏名	生年月	住保所及氏名	種痘日	痘發數	善不感感
					私公種痘
					種痘ヲ行ハサル由
					備考

治明

第 年

票痘種期

考備	種痘月日	發痘順數	住所 〔町名、字、番地トモ〕 〔必要アルトキハ〕	氏名 善不感感 生年月	保護者等氏名

備考

用紙ハ縱四寸五分横五寸五分位トシテ可成厚キ西洋紙ヲ可トス又第一期ハ單線第二期ハ復線ノ輪廓ヲ施ス等搜索ニ便ナル様調製スルコト

六、 滿洲渡航者ニ對シ内地出發前種痘施行方ノ件

(明治三十九年一月衛甲第三號 各地方長官宛衛生局長通牒)

滿洲ニ於ケル日本居留民中痘瘡ニ罹ルモノアルヲ以テ渡航者ニ對シ種痘勵行方關東總督府軍醫部長ヨリ陸軍省ヲ經テ申來候次第モ有之候條此旨一般ニ徹底セシメ渡航者ニ對シテハ出發前必ス種痘ヲナサシメ且ツ種痘證ヲ携帶セシメ候様御取計相成度依命此段及御通牒候也

滿醫第九號

(明治三十九年一月 陸軍省醫務局長照會)

關東總督府軍醫部ヨリ左記ノ通り申出候ニ付參考ノ爲メ及通牒候也

左記

滿洲ニ於ケル日本居留民痘瘡ニ罹ルモノアリ渡航者ハ必ス種痘シテ來ル様内務當局者ニ注意セラレタシ

衛甲第三號

(明治三十九年一月 衛生局長回答)

滿洲渡航者ニ對シ種痘施行方滿醫第九號御通牒ノ越了承則チ右ニ關シ別紙ノ通各地方長官へ通牒致置候條右御了知相成度此段申進候也

七、 種痘法第四條新ニ保護者ト爲リタル者ニ關スル件

(明治四十三年一月衛發第八號 各地方長官宛衛生局長通牒)

種痘法第四條ハ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ對シ同法施行後ニ於テ新ニ其保護者ト爲リ又ハ新ニ同法第三條ノ關係ヲ生シタル場合ノ責任ヲ規定シタルニ止マリ同法施行ノ際現ニ未成年者ノ保護者タリ又ハ現ニ同法第三條ノ關係ヲ有スル者ニ付テハ適用無之從テ同法附則第四項ニ關シテモ同様ト存候條御承知相成度往々疑義有之趣ニ付爲念此段及通牒候也

八、種痘ヲ要スルモノ實地調査方ニ關スル件

(明治四十三年二月衛發第四九號)
各地方長官宛 衛生局長 通牒

市町村ノ種痘事務整理ニ關シ今回及通牒候通り種痘ノ施行ニ付テハ豫メ種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ遺漏ナキヲ期スルハ最モ肝要ノ義ニ有之候處人口多數ナル市街地ニ於テハ豫メ寄留等ノ届出ヲ怠レルモノ尠ナカラサルヤニ附及ヒ候ニ付テハ是等ニ對シテハ各戸ニ就キ調査スルノ外無之ト被存候條警察官吏ニ於テ戸口調査施行ノ際此點ニ注意セシメラレ則チ種痘定期ニ在ル右等無届者ヲ發見シタルトキハ其都度市町村長ニ通報セシメ又市町村長ニ於テ種痘期日ヲ指定シタル場合ハ同様警察官吏ヲシテ特ニ種痘法第十四條ノ調査ヲ勵行セシムル等適當ノ補助ヲ爲サシメ相俟テ之カ實行ヲ舉クル様御配慮相煩度此段及通牒候也

九、船舶乗組員タル住所地ナキ未成年者種痘施行方ノ件

(明治四十三年五月衛發第二九七號)
各地方長官宛 衛生局長 通牒

船舶乗組員タル未成年者ニシテ住所地ナキ者ノ種痘期日ハ其當時ノ繫船地ニ於ケル市區町村長ノ指定ニ依ルヘキ義ト存候右ハ先般地方衛生吏員會同ノ節質疑ノ次第モ有之候ニ付此段及通牒候也

第二節 現行法令ニ對スル改正意見

第一種痘法

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ

一、第一期 出生ヨリ十ヶ月ニ滿ツル期間

二、第二期 數ハ歳七歳ヨリ八歳ニ至ル間

三、第三期 數ハ歳十三歳ヨリ十四歳ニ至ル間

定期種痘ヲ行ヒ不善感ナルトキハ更ニ一年以内ニ第二回種痘ヲ行ヒ之ヲ完了スヘシ

【理由】

一、第一期ヲ出生後十ヶ月ニ滿ツル期間トシタルコト、第二期種痘ヲ七歳、八歳トシタルコト、新ニ第三期定期種痘ヲ加ヘタルコト等ノ理由ハ、既ニ第三編第五章第二節ニ記載セルガ如シ。

二、第一條第一項但書ノ削除ハ、痘瘡經過者ト雖モ、數年ヲ經過スレバ、漸次免疫力ヲ減弱スルコトハ第四編第二章ニ記載セル所ナルト、近時痘瘡ノ診斷ハ益々困難ノ度ヲ加ヘ、時ニ誤診ヲ免レ難キ理由等ヲ考慮シタルモノナリ。

三、第一條第二項ノ削除ハ既ニ第三編第五章第二節ニ記載セル如ク、第一期種痘後ハ一年ニシテ既ニ二五%再種痘ニ善感シ、第二期種痘ニ於テスラ一八%弱再三種痘ニ善感スル等ノ事實ヨリ考察シ、定

期前二年以内ニ接種シタルモノヲ定期種痘ト見做スコトハ聊カ危険ナリト思惟スルヲ以テナリ。

第十一條 第二項削除

【理由】 人化痘漿ノ必要ナキニ依ル。

第十三條 削除

【理由】 第一條第一項ト略同様。

第二 種痘法施行規則

第一條 市町村長ハ毎年春期三月ヨリ四月ニ至ル間及秋期九月ヨリ十月ニ至ル間ニ於テ現住人中左記各項ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

一、第二期定期ニアル者ニシテ其ノ年六月末日マテニ出生ノモノハ秋期ニ前年七月一日以降出生ノ者ニアリテハ春期ニ

二、第二期及第三期種痘定期ニアル者

三、前回ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

【理由】

既ニ第三編第五章第二節ニ記載セル如キ理由ニ依ル

但シ以上ノ如ク定期種痘ヲ春秋二期ニ施行スル場合、我國ノ如ク地勢南北ニ延ビ熱帶ヨリ寒帶ノ間ニ跨ルル國土ニアリテハ種痘善感ト季節的關係ヲ考慮シ、四國九州地方等ニ於テハ九月ノ如キ殘暑尙強ク、肌ニ汗スル時季ハ之ヲ避クル等適當ニ顧慮スルノ要アリト考フ

第四條 削除

【理由】

本條ハ其ノ範ヲ獨逸ノ法規ニ採リタルモノナルベキモ、事實之ヲ運用シタル例モナカルベク、又實際必要アル場合ナカルベシト思惟シタルニ依ル

第三 種痘施術心得

第八條 「アルコホル」ヲ除キ石炭酸水ヲ加フ

【理由】

「アルコホル」ハ牛痘毒ニ對シテ甚ク有害ニ作用スルコト多ク、反之石炭酸水ハ容易ニ牛痘毒ヲ死滅セシメザルコト第二編第四章第二節ニ記載セル如キ成績ナルニ依ル。

第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康状態ニ注意シ、定期種痘ニ在リテハ左ノ各號ニ該當スルモノニ對シテ種痘ヲ猶豫スルコトヲ得

一、 出生後九十日未滿ノ者

二、 著シク榮養障害ニ陥レル者

三、 蔓延性皮膚病ニ罹リ、種痘ニ依リ障害ヲ來ス虞アル者

四、 疾病ニ罹リ病床ヲ離レ難キ狀況ニアル者

痘瘡流行シ又ハ流行ノ虞アル場合ニ於テハ前各號ニ掲グル者ニ對シテモ種痘スルヲ可トス

【理由】

現行「種痘施術心得」ニハ

第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康状態ニ注意シ、左ノ各號ニ該當スル者ニハ成ルヘク種痘ヲ猶豫スヘシ、

但シ第四號ヲ除ク外痘瘡流行ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一、出生後九十日未滿ノ者
 - 二、若シク榮養障害ニ陥レル者
 - 三、蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
 - 四、熱性病又ハ重症疾患ニ罹リ居ル者
- ト記載シテ、第十一條各號ノ該當者ハ猶豫スルヲ原則トシツツアリ、又但書ニ於テ痘瘡流行ノ場合ニ於テスラモ熱性病並ニ重症疾患ハ猶豫スルコトトナリ居レリ、然モ痘瘡流行ト限リアリテ痘瘡流行シ又ハ流行ノ虞アルトキノ文字ナキヲ以テ、流行ノ初期ニハ之ヲ強ヒ得ザルノ缺點アリ、而シテ本條記載ノ理由ニ依リ種痘ヲ猶豫セル爲罹患スル者尠カラズ、現ニ大正七年並ニ九年ニ於テ、東京市内ニ發生セル痘瘡患者ノ中、駒込病院ニ入院セルモノ七十二名中、第一期定期種痘ヲ受ズシテ罹患セシモノ二十一名(二九・七%)アリ、此内第十一條記載ノ事由ニ依リタルモノ十二名(一六・六七%)アリ、次ニ未種痘者及既種痘者ニシテ痘瘡流行ニ際シ、臨時種痘ヲ受ケザリシ爲罹病セシモノ十三名(一八・〇六%)アリ、此内一名ノ旅行不在者ヲ除キ、他ハ殆ト第十一條記載ノ事由ヲ以テ種痘ヲ忌避シタルモノナリトス

未種痘者ニシテ定期種痘ヲ受ケサリシ爲罹病
シタルモノノ理由調査
(東京市駒込病院調査)

理由	山	人	員	患者七十二名ニ對スル百分率
熱發	爲		二	三・三
幼少	爲		二	三・三
病弱	爲		二	三・三
計			四	五・六
熱發	爲		二	三・三
幼少	爲		二	三・三
病弱	爲		二	三・三
計			四	五・六

區役所ヨリ通知ナキ爲	種痘ヲ受ケル機會ナキ爲	計	患者七十二名ニ對スル百分率
爲	爲	七	九・七
爲	爲	二	二・七
爲	爲	九	一二・四

痘瘡流行ノ際臨時種痘ヲ受ケサリシ爲罹病
シタルモノノ理由調査
(東京市駒込病院調査)

理由	山	米	種	痘	既	種	痘	計	患者七十二名ニ對スル百分率
熱發	爲							三	四・二
幼少	爲							一	一・四
病弱	爲							一	一・四
計								五	六・八
熱發	爲							三	四・二
幼少	爲							一	一・四
病弱	爲							一	一・四
計								五	六・八

以上ノ狀況ヲ以テ考察スルトキハ、現行種痘施術心得第十一條ハ痘瘡豫防上相當考慮スルノ要アルヲ以テ、改正ノ要アリト信ズルモノナリ。

第十二條 第一期種痘ニ在リテハ、定型痘泡一顆以上發痘シタルモノヲ善感トス、第一期種痘以外ノ種痘ニ在リテハ、接種ノ後第八日ニ於テ丘疹結節ニ浸潤ヲ伴ヘルモノモ亦善感トス

【理由】

第一期種痘ニ於テ、一類ニテモ定型的ニ發痘シタルモノヲ善感トスヘキ理由ハ、第三編第七章第二節ニ論

シタルガ如シ、但シ之ハ第二期種痘ヲ七歳ヨリ八歳ニ至ル間ニ於テ行フコトニ決セラレル場合、斯クスベキモノナレモ、第二期種痘ガ現行ノ儘改正セラレザル場合ニハ寧ロ三類以上發痘ノモノニ限り善感トスベキモノナリト思惟ス。

第一期種痘以外ノ種痘ニ於テ、善感ヲ認ムル場合、第八日ニ於テ浸潤ヲ伴ヘルモノトセルハ、第三編第七章第二節第九、檢診標準ニ詳記セルガ如ク、死滅痘苗ヲ以テスルモ、結節、水疱ヲ生ズル場合アルヲ以テ、生活痘苗ニ依ル兵ノ善感ニハ浸潤ヲ生ズルヲ必要トスルコトヲ確信シタル爲ナリ。

第四 市町村種痘事務整理順序ニ關スル件

第三十六條 人口五萬以上ノ市區ニ於テハ前各條ニ依ルノ外、毎月(八月九月)一回以上公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ豫メ之ヲ公告シ、出生後九十日ヲ經タル者、其ノ他種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコトト規定セルモ、本條ハ次ノ如キ缺陷アリ、即チ

- (1) 殆ント形式的ニ流レ居ルコト。
- (2) 人口五萬以上ノ市區ニ限レルモ、今日ハ「市區」ト限レルハ不可ニシテ、五萬以上ノ「町村」多キヲ以テ實際ニ適合セザルコト。

【改正意見】

前記ノ條文ヲ削除シ、既記ノ如ク「種痘法施行規則」ノ改正ニ依リ、定期種痘ノ施行時期ヲ毎年二度ニ分割スルコトトナシ、此施行時期ニ脱漏ナキヲ期スルニ於テハ、此條文ヲ削除スルモ實際ニハ支障ナカルベシ。

能フベクシテ、人口五萬以上ノ大都市ニ於テハ、全市區ヲ數區ニ分チ、毎年其一區宛ノ全人口ニ種痘ヲ爲シ、五ヶ年位宛ニ全市町ヲ一週トシ、其ノ土地ヲ痘瘡免疫状態ニ置クコトヲ得、最モ良ナラント思惟スルモノナリ。

第五 種痘事務整理ニ關スルモノ

以上ハ主トシテ、技術的方面ヨリ考察セル改正意見ナルガ、事務的方面ニ於テモ相當改正ヲ要スル事項多キカ如キモ、之ニ就キテハ内務當局ニ於テモ、既ニ之ヲ認メテ御考慮中ナルノミナラス、此方面ハ何等實際的研究ヲ要スル事項ニアラサルヲ以テ、愚見ヲ呈スルノ要ナキヲ信シ、且強テ之ヲ記述スルコトハ却テ煩瑣トナルノ嫌ナキ能ハズ、茲ニハ主要ナル點ノミヲ舉グルニ止メントス。

元來現行種痘法令ハ其ノ記載極メテ周密ニシテ、種痘脱漏者ヲ防止スル爲ニハ、種痘成績ヲ戶籍ニ記載シ、小學校等ノ卒業證書ニ記入スルノ方法ヲ採ル等、國家カ如何ニ種痘ヲ重大視セルカヲ窺フニ足ルベク、他ノ衛生關係法規ニ比シ、一異彩ヲ放テルヲ想ハシムルモノアリ、然ルニ該法令ハ餘リニ複雑ニ過ギタルヤノ感ナキ能ハズ、其ノ一、二ノ例ヲ舉グレバ

一、種痘ヲ受ケタルモノニ對シテ交付スヘキ書式ハ「種痘法施行規則」ノ末尾ニ十一種ヲ舉ゲアリ、愚見ヲ以テスレバ

(イ) 公私ノ種痘ニ依リ「種痘證」「種痘濟證」ヲ區別ヲ省キ。

(ロ) 市町村長ノ發行スルモノト、醫師ノ交付スルモノトハ、其ノ交付者ノ異ナルニ過ギザルヲ以テ之ヲ共通トシ。

(ハ) 第一期、第二期ノ別モ、二、三ノ文字ヲ挿入スルコトニ依リ、共用シ得ベク、結局「完了證」「未完了證」ノ二種ニ

改ムルモ何等支障ナカルベク、猶豫證ニ至リテハ現在殆ンド使用シ居ラザルノ實情ニアラヲ以テ之ヲ削除スルモ可ナルベク思惟ス。

二、現行ノ種痘法令ハ第一期種痘ニアリテハ、戶籍簿身分登記簿及寄留簿ヲ第二期種痘ニアリテハ學齡簿ヲ基礎トシ、之ニ警察官吏ノ現住人調査ヲ以テ種痘簿ノ調製ヲ爲シツツアリ、然ルニ此方法ハ

(1) 種痘ノ結果ヲ種痘簿並戸籍簿ニ記入スルノ要アリ、又寄留者ニ就テハ本籍地ニ通報スル等市町村吏員ノ事務ヲ繁カラシムルノ割合ニ效果少キノ憾ナキアラズ。

(2) 人口ノ移動甚シキ市又ハ町ニ於テハ、現住人ハ本籍者極メテ少ク、寄留者ハ前者ニ數倍シ、然モ寄留ノ届出ヲ爲セルモノハ一割ニモ及バズ、昨年ノ現住者ト本年ノ現住者ト相同シカラザルモノ萬ヲ以テ算フルガ如キ土地アリ。

斯クノ如キ場所ニ於テ戶籍簿ヲ基礎トシテ整理セントスルハ到底不可能事ニ屬スベシ。等不便尠カラザルヲ以テ、斯ノ如キ市街地ニ對シテハ、現行法令ノ一部ヲ改正シ、現住人本位ノ方法ニ改正セラレンコトヲ希望スルモノナリ。

第六 傳染病豫防法施行規則

大正十一年九月「傳染病豫防法施行規則」
內務省令第二四號

第二十四條中、痘瘡ノ豫防消毒ニ用フベキ

石炭酸水ハ(防疫用)石炭酸三分、稀鹽酸一分、水九十六分ト改メ。

昇汞水ハ(昇汞一分、稀鹽酸一分、水千分)ニ改メラレタシ。

【理由】

予ハ大正六年以降痘瘡患者發生時豫防措置ニ從事ノ際ヨリ、痘瘡患者ハ其ノ送院消毒ノ爲ニ却テ病毒ヲ周圍ニ散布スルニアラザルカトノ疑念ヲ抱キ、送院消毒時努メテ塵埃ヲ飛散スルコトナキ様注意ヲ爲セルニモ拘ハラズ、大正九年、大正十三年及昭和三年ノ流行時ニモ亦此經驗ヲ反復セリ、殊ニ傳染病院ニ於テ、患者ノ死亡セル際、其ノ死體ヲ屍室ニ運搬スルニ當リ、病毒ヲ四圍ニ飛散セシメタリト考ヘラルル事實ハ、寧ロ塵埃ノ飛散ニアラズシテ、消毒方法ノ不備ヲ想ハシムルモノアリ、之ニ依リテ現行內務省令傳染病豫防法施行規則中「消毒方法」ニ記載セル三%石炭酸水ハ能ク短時間ニ人痘毒ヲ死滅スルモノナリヤニ疑ヲ抱キ、第二編第四章第二節ニ記載セル痘毒ノ化學的作用ニ對スル抵抗力試驗ヲ行ヒタルモノナルガ、果シテ其ノ結果現行ノ消毒方法ハ、人痘毒ヲ滅殺スルニ充分ナリトハ云ヒ難ク、之ニ一%ノ稀鹽酸水ヲ加フルコトニ依リテ、其ノ效果ヲ充分ナラシメ得ルコトヲ知り得タリ、又一%昇汞水ニ於テモ同様ノ事實アルコトヲ發見セルニ依リ、右實驗ノ成績ニ鑑ミ、現行ノ消毒方法ノ一部ヲ前記々載ノ如ク改正セラレンコトヲ希望スルモノナリ。

尙痘瘡病毒ガ送院消毒ノ際及死體處置ニ當リ、四圍ニ飛散セリト考ヘラルル事例ヲ記載スレバ次ノ如シ。

一、送院消毒ニ依リ病毒ヲ四圍ニ飛散セシメタリト考ヘタル事例。

昭和三年二月三日府下尾久町ニ於テ、馮來嘉ナルモノ痘瘡ト決定、即日送院消毒ヲ行ヒタルガ、此日病毒ハ飛散セリト思シク、次テ三河島町ニ於テ、今野モモ子二月十三日發病セリ、馮來嘉ノ送院ヨリ十二日(此患者ハ十八日父母ニ伴ハレテ神田區泉橋病院ニ來リ、同院ニ於テ決定シ、東京市駒込病院ニ收容セラレタルガ、三月二十九日ニ至リ三河島町ニ石橋謙夫、神田區ニ河上芳江、日本橋區ニ谷徹夫ナル三名發病、今野モモ子ノ送院ヨリ十二日(何レモ四月六日同時ニ本病ト決定セリ。

